

9月2日 けりをつける

物事に決着をつけることを「けりをつける」という。でも、「けり」って何だろう。どんな漢字で表記するのだろうか。

実は「けり」に当てる漢字はない。なぜなら「けり」は古文で最もポピュラーな助動詞、過去や詠嘆を表す「けり」だから。物事を終わりにするので「けり」をつける。言葉遊びに長けた日本人ならではの表現だ。

ではもう一つ、言葉遊びに関するなぞなぞ。化粧水やスポンジの代わりに用いられる植物「へちま」は、その形からもともと「糸瓜（いとうり）」と呼ばれていた。それがなぜ「へちま」と呼ばれるようになったのか。ヒントは「いとうり」「いとうり」と呪文のように唱えると見えてくる。「いとうり」は「と」にアクセントがあるため、繰り返すうちに「とうり」となる。この「と」を当時の仮名手本である「いろはうた」に重ねると……。 「いろはにほへとちりぬるを……。 「と」は「へ」と「ち」の間（ま）にある。だから「へちま」。これも言葉遊びの好例であろう。

言葉の成り立ちを調べるといろんなことが見えてくる。当たり前のように使う言葉に、実は日本人のおしゃれな遊び心が潜んでいる。

